

別記様式（第6関係）

		担当課	建設部 下水道課
会議の名称	第2回鴻巣市上下水道事業運営審議会		
開催日	平成30年 9月 28日（金）		
開催時間	午後 1時 00分 開会 ・ 午後 3時 20分 閉会		
開催場所	鴻巣市役所 本庁舎4階 大会議室		
議長(委員長・会長)氏名	会長 渡辺 孝夫 副会長 山田 芳久		
出席者(委員)氏名 (出席者数)	渡辺 孝夫(会長)、山田 芳久(副会長)、飯山 實千代 加藤 章江、渡辺 千鶴、小幡 剛、大澤 正、梶山 喜美夫 (8名)		
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	松居 誠治、長嶺 俊広 (2名)		
事務局職員職氏名	(建設部) 加藤部長 村田副部長 (建設部下水道課) 矢部課長 宮澤副課長 南主査 花島副主査 高田副主査 伊藤副主査 稲垣主事		
傍聴の可否 (傍聴者数)	傍聴可 (傍聴者 0名)		
会議の内容	(次第) 1 開会 2 前回の会議録について 3 議題 (1)鴻巣市下水道事業経営戦略(案)の説明・審議 ア 第1回審議内容及び事前質問の回答、修正案提示 イ 事業計画と財政の見通し及びフォローアップ体制 (2)パブリックコメント(意見公募手続)の実施について (3)その他 4 閉会		

会議の内容

(決定事項など)

- ◆ 第1回審議会の会議録は、市のホームページで公開されており、市役所と各支所の市政情報コーナーで閲覧可能となっている旨、事務局から報告を行った。
- ◆ 次第3(1)ア「第1回審議内容及び事前質問の回答、修正案提示」において、第1回審議会および事前質問書で挙げた質問・意見に対する事務局の回答と、それを踏まえた経営戦略(案)の修正について、事務局から説明を行った。これについて、異議・質疑はなく、修正案が了承された。
- ◆ 次第3(1)イ「事業計画と財政の見通し及びフォローアップ体制」について、事務局からの説明に対して、以下のような質疑応答がなされた。
 - ・「2028年度から2037年度まで、事業費を5億円まで下げた理由はなにか」との質問に対し、事務局から「新規整備については2037年度までに完了させる目標があり、一方で施設の耐用年数から老朽化対策を本格的に開始するのが2038年度からとなるため、この間となる2028年度から2037年度までは事業費が下がっている。この間にも老朽化対策は実施していくが、耐震化を重点的に進める計画である」と回答した。
 - ・「減価償却費について、過去の数値が示されていないため、過去と比べて今後増加するのか、減少するのか把握できない」との意見があり、事務局から「減価償却費は、いま現在は上昇の傾向にある。具体的な数値は後日資料を提供する」と回答した。
 - ・「将来どの程度使用料を上げなければならないのか、ある程度把握できているのか」との質問に対し、事務局から「使用料改定については、今後5年間の経費回収率を参考にし、必要性の検討を行う予定である」と回答した。
 - ・「補てん財源について説明がほしい」との意見があり、事務局から「現金の支出を伴わない減価償却費および純利益が主な補てん財源となり、資本的収支の不足額を埋める財源となる」と回答した。
 - ・「一般会計繰入金11億円が今後も確保できるのか」との質問に対し、事務局から「繰入金が減額の方にあることを踏まえ、段階的な減額を前提としたシミュレーションを行っている。計画期間である10年間を含めた2072年まで黒字を確保できるが、将来的には赤字に転じる結果が出ている。将来的な経営計画の検討が必要である」と回答があった。
 - ・「財政シミュレーションを75年間という長期間で実施しているのはなぜか」との質問に対し、事務局から「管路の耐用年数を75年間に設定しているため、この期間のシミュレーションを実施した」と回答した。
 - ・「年間の整備量は現実的な数値か」との質問に対し、事務局から「国庫補助金の交付率によっては事業を抑えざるを得ないこともあるが、近年は要望に対して100%がついており、これが維持されれば計画通り進められると考えている」と回答した。

会議の内容

- ・「流域下水道建設負担金は関連各市で均等なのか」との質問に対し、事務局から「各市の全体計画の計画汚水量(日最大)の割合で負担率が設定されており、鴻巣市は約 26%となっている」と回答した。
- ・「東日本大震災の際は、下水道の被害はどの程度あったのか」との質問に対し、事務局から「液状化によりマンホールが 10cm 程度浮き上がった箇所が何箇所か生じた。ポンプ場の被害は無かった。」と回答した。
- ・「接続率の向上について、どのような対応をしているのか情報がほしい、また戦略には含まれているのか」との質問に対し、事務局から「毎年、地域を定め、接続依頼の文書を送付している。経営戦略(案)で接続率の向上を施策の一つとして挙げている。今後は指定工事店組合にも情報提供をしていきたいと考えている」と回答した。
- ・「財政シミュレーションで補てん財源が赤字となるのはなぜか」との質問に対し、事務局から「単年度で事業を多く行くと、積立額より補てんする額の方が大きくなるため、補てん財源が減少していくことになる」と回答した。
- ・「人口減少はどの程度進むと予測しているのか」との質問に対し、事務局から「鴻巣市人口ビジョンをもとに推計を行っており、2089 年度には現在の約 3 分の 1 程度になると見込んでいる」と回答した。
- ・「施設の更新について、将来は現状より性能や耐用年数が向上すると期待されるが、その分をシミュレーションに見込んでいるか」との質問に対し、事務局から「現状では技術革新は見込んでいないが、5 年ごとの計画見直しにあたっては、新たな情報があればそれを反映していく」と回答した。
- ・「管路の目標耐用年数を 75 年としているが、現在の技術でそこまで延ばせるものなのか」との質問に対し、事務局から「適切な調査・補修を行えば 75 年は維持できるものとして目標を掲げている」と回答した。
- ・「使用料収入の未収金についてはどのような対応を行っているのか」との質問に対し、事務局から「下水道料金はほとんどが水道料金と一緒に徴収を行っており、未収金の多くは水道の給水停止と併せて徴収をしている」と回答した。
- ◆ 次第3(1)イ「事業計画と財政の見通し及びフォローアップ体制」について、委員の意見を受け、次の事項を経営戦略(案)に反映させることとなった。
 - ・新規整備、耐震化、老朽化対策に対する事業費の考え方を追記する。
 - ・財政シミュレーション結果について、どのケースが考えられるか、説明を補足する。
- ◆ 次第3(2)パブリックコメント(意見公募手続)の実施について、10月22日～11月22日の31日間で市政情報コーナーや市のホームページに経営戦略案とその概要を掲載し、市民から意見公募することとした。
- ◆ 第3回鴻巣市上下水道事業運営審議会は、1月9日(水)午後1時から行うこととした。

配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none">・【資料1】鴻巣市上下水道事業審議会委員名簿・【資料2】第2回上下水道事業運営審議会 座席表・【資料3】第1回審議会 公開用議事録・【資料4-1】第1回審議会資料に対する質問事項(回答)・【資料4-2】近隣市の状況・【資料5】鴻巣市下水道事業経営戦略案の修正案・【資料6】鴻巣市下水道事業経営戦略案(平成30年9月修正)・【資料7】鴻巣市下水道事業経営戦略案 第2回説明資料
---------	--